

# ナゼ根子岳風力発電に反対か？

08.01.14

第1は、立地条件が悪いからです。

大型の風力発電を16基も高い山岳地(標高 1700~2000m)に建設します。大規模な基礎工事と道路工事で土地を改変します。高さ 100mを超えるプロペラ翼端の回転速度は時速 200km 以上にもなります。

すぐ下流の隣接地には水源地があります。10 人の犠牲者がでた土石流災害の発生地、崩れやすい火山性地質です。天然記念物のイヌワシも生息する鳥獣保護区です。国立公園内で、花の百名山として親しまれている場所です。

こんな悪条件の場所に計画するから反対なのです。いくら科学的に調査したからといって安全性が立証できるとは限りません。「予見できなかった」とか「想定以上だった」と後で弁解する事例が少なくありませんが、「後悔先に立たず」です。

第2は、他に方法が無いのならまだしも、そうではないからです。

無理な場所での風力発電をやめる分くらいの埋め合わせは別の方法でできます。犠牲を承知で危険な手段にでるのは、まず、できること、やるべきこと、を全てやってからです。

適正な場所はまだまだたくさんあるはず。なにしろ日本の陸上適地での可能量と推定される分のまだ 1/15 しか利用していないのですから。風力先進地の欧州では洋上風力に移行しつつあります。

事業者は、風況が良く、かつ、立地環境を犠牲にしない適地を真剣に探すべきです。そうしてこそ「環境ビジネス」の公益性を発揮でき、税金から 1/3 もの補助金を出してまで支援する理由があるといえるでしょう。

別のクリーンエネルギーがあります(太陽光発電、小水力発電、バイオマスなど)。日本の得意とする省エネ技術があります。そして何より大切なのは浪費削減です。ノーベル平和賞受賞のパチャウリ IPCC 議長が「価値観を見直し、ライフスタイルをかえねばならない。」(信毎 08.1.4)と指摘しているところです。

「地球環境」のために「地域環境」を犠牲にするのでは持続可能な手段となりません。これでは「腹へったタコが自分の足を食べる」ようなことになってしまいます。温暖化問題は環境に負荷をかけ続けてきたことの集積結果であり、それ故、その解決手段は環境に無理な負担をかけず、循環可能な方法でなければなりません。

大型風力発電は立地環境を犠牲にせず、住民合意のもとに推進しよう！  
温暖化対策は持続可能な方法で本格的かつ計画的に取り組もう！